

論文審査の結果の要旨

平成 30 年 2 月 7 日

○課程博士 論文博士	教育学	(ふりがな) 学位請求者氏名	さかい たつや 酒井 達哉
論文 題目	大正末期・昭和初期の農村部小学校における生活教育の展開—兵庫県古市尋常高等 小学校の事例にもとづいて—		
審 査 員 (3名以上)			
主査氏名 印	副査氏名 印	副査氏名 印	
矢野 裕俊	田中 每実	松下 良平	
論 文 審 査 要 旨			
<p>1. 本論文の概要とその意義</p> <p>本論文は、大正末期から昭和初期の農村部公立小学校であった兵庫県古市尋常高等小学校の教育実践を、同校や同校元教員の手で残された教育実践史料、さらに地域の統計・行政などに関する資料、それに加えて比較としての他府県の関連資料などをも存分に生かして、「学校文集」「俳句指導」「教科の生活化」「郷土教育」という4つの側面に注目しつつ、この時期の同校における児童の生活を教育活動の中心においた教育の内実とその展開過程を明らかにしたものである。</p> <p>大正末期・昭和初期には、それ以前から主に一部の私立小学校や師範学校附属小学校で行われていた新教育の実践が衰退局面を迎える中でも、児童の実際生活と教育を結びつける多面的な実践が公立小学校でも模索されており、そうした実践を総称することばとして、生活教育という概念も生み出されていた。本論文は、史料を丹念に検討することにより、研究史においては手薄な、この時期の一農村部公立小学校における生活教育の実践の諸相を、地域の文化でもあった俳句指導など、必ずしも当時生活教育とは意識されなかった実践をも含めて生活教育の展開として描き出している。それにより古市校において生活教育の展開として捉えられる実践の内実は、その後今日に至るまでの時期に定着する「生活教育」概念がやや狭く限定されていくこととは対照的に、豊かなものであったことが明らかにされた。</p> <p>こうした新しい知見をもたらした点で、本論文は、当該時期の生活教育の概念をその実態に即して浮かび上がらせたものであり、今後の研究の基盤的研究としての意義をもつとともに、1校の実践への多面的接近を試みた研究としても、高く評価しうるものである。</p> <p>2. 論文審査の経過と結果</p> <p>学位請求者から提出された学位請求論文につき、2017年10月19日に、主査および副査2名の計3名により、主査・副査の会が開催され、学位請求者から論文内容の説明を受けた後、質</p>			

疑応答を行った。この会では、総じて提出論文は最終試験までの期間に修正することで博士論文としての独創性とクオリティを十分に備えるものであると判断された。同時にその場で指摘された改善点は、取り上げた時代における生活概念の検討が必要であること、現在の生活教育を過去に投影するのではなく、取り上げた時代の生活教育の固有の特徴をより鮮明にすること、などであった。

2017年11月4日（土）に6人からなる論文審査委員会（委員長は上田孝俊教授）が開かれ、そこで次の4点の指摘がなされた。「生活教育」という概念に含まれる多様な意味内容をより明確に整理し再検討すること。考察における通説と自説とをより明確に区別すること、研究で取り扱う時期についての説明をより丁寧に行うこと、引用の扱い等において一貫性をもたせること、などであった。

その後、提出論文の修正がなされ、再提出された論文について、2018年1月20日（土）12時30分より、論文審査委員会が開催され、指摘のあった諸点が修正により改善されていること、文体や引用等の表記も適切なものとなり、より明快な文章となっていることが確認された。その結果、論文審査委員会において本博士請求論文が合格と評価された。

3. 最終試験の結果

2018年1月27日（土）に行われた最終試験（公聴会）では、学位申請者から、配付された論文要旨およびスクリーンに映し出されたスライドを用いて、論文の概要についての説明が行われた。概要の説明は研究の目的、方法、得られた知見とそれがもつ研究上の意義に関するものであり、論文の要点を的確に押さえた内容であった。また、それに続く質疑応答においては、出された質問に対して適切な答えがなされた。

以上の結果を踏まえて行われた博士課程委員会の判定委員会において、投票の結果、学位請求者、酒井達哉氏の学位請求論文は合格とされた。